

看護師の視点からみた選択肢提示のあり方に関する研究

研究分担者	山勢 博彰	山口大学大学院医学系研究科	教授
研究協力者	山本小奈実	山口大学大学院医学系研究科	助教
	佐伯 京子	山口大学大学院医学系研究科	助教
	田戸 朝美	山口大学大学院医学系研究科	講師
	立野 淳子	小倉記念病院	専門看護師

研究要旨：

脳死下臓器提供における看護師の認識と役割の実態について調査をし、看護師の役割についてのガイドライン（案）を作成した。

看護師の認識は、脳死下臓器提供に対して賛同している者は多いものの、賛否を明確にしている看護師も多かった。また、脳死は人の死であるという認識を多くの者が持っているわけではなく、実際のケア時には看護師はさまざまなストレスを感じていた。役割の実態については、『脳死の告知』、『臓器提供の選択肢提示』、『家族の代理意思決定支援』、『法的脳死判定』、『臓器保護』、『看取り』、『悲嘆ケア』の各段階で、患者と家族の意思を尊重したケアを基本とし、重要なアセスメント、ケアに対する看護師の役割の実際を明らかにした。さらに、各段階について、「目標」「情報収集」「患者ケア」「家族ケア」「他職種連携」の側面で役割を整理し、これまでの調査で明らかになった結果を統合し、ガイドライン（案）を作成した。選択肢提示では、その段階での役割のみが重要では無く、一連の脳死下臓器提供プロセスにおいて看護師の役割を果たすことによって、選択肢提示のケアが充実したものになる。

A. 研究目的

脳死下臓器提供数が増加した現在、脳死下臓器提供施設での体制の整備が必要とされており、特に患者家族の傍にいる看護師の役割は重要である。選択肢提示においては、一連の脳死下臓器提供プロセスにおいての看護師の役割を明確にすることによって、看護師の果たすケアが充実したものになると考える。

そこで、本研究では、①脳死下臓器提供プロセスに関わる看護師の認識、看護師の役割の実態を明らかにすることと、その結果を踏まえて②脳死下臓器提供における看護師の役割に関するガイドライン（案）を作成した。

B. 研究方法

＜脳死下臓器提供プロセスに関わる看護師の認識と役割＞

脳死下臓器提供に携わった経験のある看護師20名に対するインタビューガイドを用いた半構成的面接と、脳死下臓器提供を行ったことを公表している施設で、脳死下臓器提供した患者と家族の看護を実践した看護師を対象

に質問紙調査を2段階で実施した（平成26～27年）。

インタビュー内容は、臓器提供に関わった件数、脳死とされる診断から臓器提供の選択肢提示、代理意思決定までの家族アセスメント、看護師の思いとケアなどとした。質問紙調査では、脳死下臓器提供への賛否、脳死下臓器提供プロセスで感じるストレス、脳死下臓器提供における看護師の役割とした。＜脳死下臓器提供における看護師の役割に関するガイドライン（案）の作成＞

フォーカス・グループ・ディスカッションによる12名の看護師を対象とした質的記述的研究を実施した（平成28年）。

ガイドライン（案）では、看護師の役割を、脳死の告知、臓器提供の選択肢提示、家族の代理意思決定支援、法的脳死判定、臓器保護、看取り、悲嘆ケアの各段階について整理し、標準的な看護師の役割に焦点を当てた。

倫理面への配慮：

調査は、自由意志に基づき回答するもので、強制されるものではないこと、回答しない場

合も不利益を受けることが無いことなどを説明した上で対象者からの協力を得た。

本研究に関係する全ての研究者は、ヘルシンキ宣言（2013年フォレタレザ修正）、及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）に従って実施した。所属大学の研究倫理審査委員会の研究倫理審査を受け、承認を得た。

C. 研究結果

<脳死下臓器提供プロセスに関わる看護師の認識と役割>

1、インタビュー調査

20名の看護師のうち、脳死下臓器提供患者は全体で17事例を経験していた（重複有り）。家族アセスメントでは、「患者に近づく事ができない」「臓器提供なんて考えられない」「代理意思決定への苦渋」「家族間のサポート不足」などの家族の思いをアセスメントしていた。看護師の思いでは、「家族に十分関われない」「（選択肢提示の）タイミングへの疑問」「驚き、戸惑い」「その後のプロセスの緊張感」「自分の家族におきかえる」「代理意思決定に介入することへの不安」などがあつた。看護ケアでは、「患者と家族の時間を確保」「終末期の家族ケアの提供」「チームの間で情報の共有」「患者と家族の意思を尊重」「家族の擁護者としての役割」などの看護実践を行っていた。

2、質問紙調査

脳死下臓器提供を行ったことを公表している施設への1段階目の調査では、185名の看護師から回答を得た。経験症例数は、1例98名（56.3%）、2例51名（29.3%）、3例以上経験者が22名（12.9%）であつた。脳死下臓器提供に賛成の者は100名（57.5%）、反対4名（2.3%）であつた。脳死は人の死と思う者は58名（33.3%）、思わない者23名（13.2%）、どちらでもないとした者89名（51.1%）であつた。脳死下臓器提供プロセスで感じるストレスは、【直接看護】が2.26ポイント（平均値）、【治療・管理】が2.64ポイント、【家族ケア】が2.59ポイントであつた。

2段階目の調査では、135名から回答があつた。脳死下臓器提供における看護師の役割における実施度は、【脳死の告知】3.65±1.48、【臓器提供の選択肢提示】3.36±1.62、【家族の代理意思決定支援】3.64±1.50、【法的脳死判定及び臓器保護】3.53±1.56、【看取り】4.13±1.33、【他職種との連携】3.57±1.51、【悲嘆ケア】3.59±1.51であつた。

<脳死下臓器提供における看護師の役割に関するガイドライン(案)の作成>

ディスカッションのデータを分析し、『脳死の告知』、『臓器提供の選択肢提示』、『家族の代理意思決定支援』、『法的脳死判定』、『臓器保護』、『看取り』、『悲嘆ケア』の各段階における「目標」「情報収集」「患者ケア」「家族ケア」「他職種連携」の看護師の役割を整理した。作成したガイドライン(案)は、厚生労働科研報告（平成22年度）の「臓器提供施設マニュアル」に示されている基本的な臓器提供手順に対応するものにした。

D. 考察

<脳死下臓器提供プロセスに関わる看護師の認識と役割>

インタビュー調査からは、脳死の告知までは、落胆や動揺している家族の情緒的反応をアセスメントしたうえで、家族の思いを傾聴し、家族の様子を見守るなどのケアを実践していることがわかつた。選択肢提示では、今後の臓器提供を予測したうえでの医療チームの連携が必要と考えていた。また、臓器提供について家族に話すことへの戸惑いやその後の臓器提供までのプロセスへの不安が現れており、不安と戸惑いが最も強い時期と考えられた。

全体を通し、臓器提供の有無に関わらず、看護師として患者と家族の意思を尊重したケアをしたいと考えていた。臓器提供は、終末期の中でも特徴的な対応が必要で、ケアに関わる看護師も不安や戸惑いを抱えていた。

質問紙調査からは、脳死下臓器提供について賛否を明確にしていない看護師が多く、また、脳死が人の死であるかどうかについても明確に判断しない看護師が約半数の多数を占

めていることがわかった。また、実際のケアのさまざまな場面でストレスを感じていた。役割の実施度は、7カテゴリーのうち【看取り】の役割実施の程度が最も高く、【臓器提供の選択肢提示】が最も低かった。看取りでは、共感的態度、感情移入といった情緒的ケアの中でも難しい対応が求められるものの、看護師の役割として重要な意味を持つものと思われる。臓器提供の選択肢提示は、基本的には主治医による説明責任が大きいため、それをサポートする役目が看護師に認識されていると思われる。選択肢提示のサポートはそれだけで成り立つものではなく、脳死下臓器提供プロセス全体での看護師の関わりや、家族の代理意思決定支援のあり方が重要であり、適切な選択肢提示につながると考える。

<脳死下臓器提供における看護師の役割に関するガイドライン(案)の作成>

作成したガイドライン(案)は、調査で明らかにした看護師の役割実態を踏まえているため、実際の場面でも有効に活用できると考える。しかし、標準的なプロセスで脳死下臓器提供が進行しない場合もあれば、臓器提供に至らないケースもある。患者家族の個別性にも配慮する必要がある。施設によっては、看護体制や組織のマンパワーなどの違いからガイドライン(案)が示す標準的役割を發揮できない可能性もある。

E. 結論

脳死下臓器提供プロセスに関わる看護師の認識として、患者と家族の意思を尊重したケアを基本とし、プロセスの局面毎に重要なアセスメント、ケア、看護師自身の特徴的思いを持っていた。看護師の役割では、【看取り】の役割実施の程度が最も高く、【臓器提供の選択肢提示】が最も低いことがわかった。

脳死下臓器提供の各段階について、「目標」「情報収集」「患者ケア」「家族ケア」「他職種連携」の側面で役割を整理し、ガイドライン(案)を作成した。

選択肢提示では、その段階での役割のみが

重要では無く、一連の脳死下臓器提供プロセスにおいて看護師の役割を果たすことによって、選択肢提示のケアが充実したものになる。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表

- ・ 山本小奈実ほか:脳死下臓器提供における選択肢提示の現状と看護、日本集中治療医学会雑誌、Vol23 Supplement、p605、2016.
- ・ 山本小奈実ほか:脳死下臓器提供における看護師の役割の実態と課題、第52回日本移植学会総会プログラム抄録集、347p、2016.
- ・ 山本小奈実ほか:脳死下臓器提供における看護師の役割についてのガイドライン(案)の作成、第44回日本集中治療医学会学術集会、AW-4、2017.

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし

